

令和 2 年 6 月 1 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02780

研究課題名（和文）石山寺旧蔵金光明最勝王経古訓点の研究

研究課題名（英文）Research of The Ishiyama-dera Komkoumyou saishou oukyou-Koten

研究代表者

高山 倫明 (TAKAYAMA, Michiaki)

九州大学・人文科学研究院・教授

研究者番号：90179565

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000 円

研究成果の概要（和文）：九州大学附属図書館春日政治・和男文庫収蔵の石山寺旧蔵金光明最勝王経十卷（奈良時代書写）につき、平安後期頃加點と推定される古訓点に則って釈文の作成を進め、本資料の日本語史資料としての位置づけを考察した。

併せて、九州大学大学院人文科学研究院（文学部）高山研究室に別置されている春日政治・和男旧蔵の洋装本、ノート類につき、その分類整理ならびに調査を行い、その学史的意義の一端を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

石山寺旧蔵金光明最勝王経十卷の古訓点は平安時代語研究の貴重な資料と考えられ、訓読文作成を通じて行った基礎的研究は、今後の日本語史研究に寄与するところがあると思われる。

また、春日父子は、ともに優れた日本語史研究者として知られ、すでに研究史上の人物でもある。彼らの残したノート類から、その学術史的な位置づけはもとより、九州大学史・部局史上の功績の一端を明らかにすることができた。

研究成果の概要（英文）：In this research, the Komkoumyou saishou oukyou (Sovereign Kings of the Golden Light Sutra) was chosen as one of the source materials for the study of kunten. The Komkoumyou saishou oukyou is a Buddhist sutra translated into Chinese by the Tang-dynasty monk Yijing (Jpn. Gijo) in the 7th century, and was revered in Japan since ancient times. The Kasuga Bunko manuscript of the sutra is one of only a few complete manuscript copied during the Nara period. The kunten, added during the Heian period, provide precious data on the Japanese language at that time.

研究分野：人文学

キーワード：金光明最勝王経 音義 訓点 ラコト点 石山寺 春日政治 春日和男

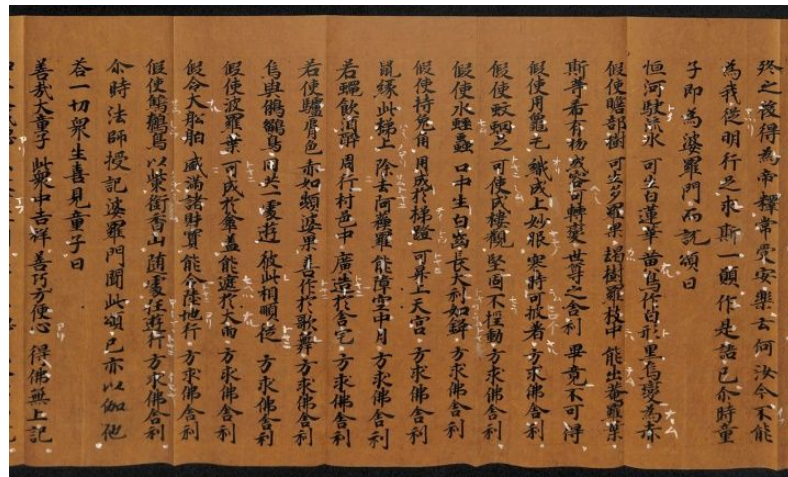
様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2013年8月、故春日政治(1878-1962)・和男(1915-2012)九州大学文学部名誉教授の父子二代に渡る旧蔵書が九州大学附属図書館に寄贈され、貴重な古写本・古版本等からなる約700冊のコレクション、春日政治・和男文庫となった。その際、図書館では重複本となる洋装本(日本語学・訓点語学・日本古典文学関係図書)やノート類については、とりあえず高山研究室で受け入れ、管理することとなった。

2016年5月には第57回附属図書館貴重文物展示「真仮名、かな、カナ：仮名と文体の発達史」を筆者が中心となって企画し、大学院人文科学府の学生とともに同図録を作成した(附属図書館刊、執筆：高山倫明・蛭沼芽衣・門屋飛央・巢山優希・藤田優子・古田龍啓)。

また、2016~19年度にかけて大学院人文科学府の演習授業(日本古代語史研究I~IV)では春日政治・和男文庫収蔵・石山寺本金光明最勝王經を取り上げ、平安時代中期頃の加點とされる古訓点を通して、古代日本語や日本漢字音の諸問題について教育・研究を行った。同書については春日政治(1958)、春日和男(1961)、勝山幸人(1984)等の優れた先行研究はあるものの、春日政治(1943)のような全文解読を踏まえた総合的研究はまだなく、ここにその全文解読を思い立った次第である。



2. 研究の目的

鎮護国家を説く金光明最勝王經は、天武朝以降、護国の經典として広く講説読誦が行われ、聖武天皇の国分寺建立もこの經の信仰から出ている。その隆盛に比すれば、現存する古訓点付古写本は必ずしも多くはなく、他に西大寺本、唐招提寺本、五島美術館蔵本、東京大学国語研究室蔵本などがあるばかりである。西大寺本以外はどれも残巻で、全巻を完備した石山寺旧蔵本は西大寺本とともに貴重な一本といえる。

もとは巻子本だったものを、石山寺一切經に加えるにあたって折本に改装したようで、天地が切断され、書き入れや本文の一部が失われている箇所もある(石山寺一切經は奈良時代~室町時代の各時代にわたる多種の写經・版經からなる取り合わせ經で、天明~寛政年間に巻子本から折本に改装されたものがある。本經もそのひとつであろう)。

識語や奥書は存しないが、本文は奈良朝の書写、訓点は平安中期~後期に加點されたものと推定されている。加點は白墨によるものが主で明瞭に残っている。褪せて見えにくくなっているが一部に朱墨による点や書き入れも見える。白点・朱点とも全巻を通じて東大寺点(三論宗点)に属するものである。仮名点は、書体や字体が巻によって異なることから、複数の手に成ると考えられる。

西大寺本は、古訓点研究の金字塔と評される春日政治の名著『西大寺本金光明最勝王經古点の国語学的研究』(乾坤二冊並びに別冊索引、斯道文庫紀要第一、岩波書店1942)で取り上げられ、そこに付された白点(平安時代初期の加點と推定)によって全文解読し、精緻な考察が加えられた。乾坤二冊のうち、本文篇は、原本影印を上段に、その訓読文を下段に配して研究篇の検証が可能な形になっている。この形態は、ヲコト点、仮名点、補読等の表示形式とともに以後の訓点語研究に引き継がれている。研究篇は、訓点(仮名字体・ヲコト点・訓字)、訓法、音韻(国語音・字音)、語彙、語法にわたる総合的・体系的な考察で、形式・内容ともに優れ、後続の訓点語研究の模範となった。

本研究は、石山寺旧蔵本全十巻につき、その古訓点を分析し訓点の実態の詳細を明らかにするとともに、仮名点・ヲコト点にもとづく釈文の作成を推進し、併せて、西大寺本金光明最勝王經古点との比較対照を行い、安時代語や訓点史にかかる新たな知見を探るとともに、本資料の日本語史資料としての位置づけをより確かなものとするを旨としたものである。

また、春日政治(1878-1962)は大矢透・吉沢義則の後を受けて訓点資料の日本語学的研究を推進し、訓点語学の基礎を築いた人物である。長男の和男(1915-2012)も、その学問を継承し、九州大学文学部教授、第二代訓点語学会会長をつとめた。ともに、すでに研究史上の重要人物であり、高山研究室で保管中の洋装本、ノート類の分析を通じて、その学史的意義をよ

り明らかにすることも、本研究で意図したところである。

3. 研究の方法

まず、全巻をスキャンするとともに、行通し番号付全文テキストファイルを作成した。次いで、大学院人文科学府の演習授業（日本古代語史研究 I~IV、2016~19 年度）において、画像データをもとに、仮名点・ヲコト点にもとづいた釈文の作成を進め、併せて西大寺本金光明最勝王経古点との比較対照作業を順次推進した。その際、訓読文作成の要領は春日政治（1942）に範を仰ぎ、大正新脩大蔵経や西大寺本との比較、干祿字書・龍龕手鑑等による字体の判定、同経に現われる漢字 436 字を抄出して字音注・意義注・万葉仮名による和訓等を付した金光明最勝王経音義（承暦三（1079）年の識語）との比較、等々を平行して行った。

併せて、春日政治・和男の残したノート類につき、その分類整理ならびに調査を行い、教授会議事録や新聞データベース等にも照らしつつ、その学史的意義を追究した。

4. 研究成果

石山寺旧蔵金光明最勝王経十巻（奈良時代書写、平安後期頃加点と推定される訓点つき）につき、九州大学大学院人文科学府の演習授業「古代日本語史研究」の一環として、その古訓点を分析し訓点の実態の詳細を明らかにするとともに、仮名点・ヲコト点にもとづく釈文の作成を鋭意推進した。併せて、西大寺本金光明最勝王経古点との比較対照を行い、安時代語や訓点史にかかる新たな知見を探るとともに、本資料の日本語史資料としての位置づけを行った。

また、九州大学大学院人文科学府（文学部）高山研究室に別置されている春日政治・和男旧蔵の洋装本、ノート類につき、その分類整理ならびに調査を行い、その学史的意義の一端を明らかにすることができた。

大正 15 年（1926）に 48 歳で九州帝国大学法文学部国文学講座初代教授に就任した春日政治は、翌々年の昭和 3 年（1928）には早くも第二代法文学部長となり創設後まだ日の浅い学部の基礎を固めた。

その当時の春日論文には「二月に入つて突然自分の一身に予期しなかつた境遇上の急変を受けた為、稿を続けることができなくて、『国語史上の一画期 文祿伊曾保を中心とした語法』新潮社『日本文学講座 一 日本文学総説』、1928 年）、『予期しなかつたできごとのために、執筆する暇を失ひました』、『古訓点の調査を中心とした大矢博士の研究』、『国語と国文学』5-7 大槻文彦・大矢透両博士追悼号、1928 年）といった記述もある。

折しも、共産党関係者多数が検挙された三・一五事件を受け、左傾教授として向坂逸郎ら三名の法文学部教授が追放された時期に当たっており、春日は文部省・総長と教授会の板挟みで苦渋の決断を迫られたようである。

追放された向坂を馱で見送った大学関係者は春日だけで「春日さんがホームにしょんぼり立っていた」（向坂談。1975 年 6 月 11 付毎日新聞福岡ワイド版「九大 風雪五十年」第 77 回より）というエピソードもあって、その人柄を窺わせるものがある。

また、昭和 11 年（1936）から昭和 13 年（1938）に定年退官するまで第七代附属図書館長も勤めたが、蔵書家としても名高い春日らしく、貴重書の目録解題作成を率先して遂行し、学部の初期蔵書形成に大きく貢献している。

そうした、大学人としての活動と研究の進捗の関係につき、その一端を明らかにすることができた。その成果の一部は『日本語学』特集「日本語学を創った人々」2020 年春号第 39 巻 1 号（通巻 500 号）「春日政治」の項で公開した。

ただし、残念ながら、本科研対象年度内では、全巻の解説・釈文作成を終えるには至らなかった（まだ数年はかかる見込みである）。大学院演習での作業は昨年度で一応の区切りを付け、今年度からは有志で石山寺本金光明最勝王経研究会を立ち上げ（代表：蛭沼芽衣）引き続き釈文作成を推進するとともに、仮名点・ヲコト点データベースの構築に向けて鋭意作業中である。

<参考文献>

- 春日政治（1943）『西大寺本金光明最勝王経古点の國語學的研究』勉誠社
- 春日政治（1958）「石山本最勝王経古点より」『国語国文』(27)11（『春日政治著作集六』所収）
- 勝山幸人（1984）「金光明最勝王経の古訓法について」『野州国文』33
- 春日和男（1961）「連体格にたつ「非」字の訓 石山寺旧蔵本金光明最勝王経古点より」『訓点語と訓点資料』19 輯
- 築島裕編（2007-2009）『訓点語彙集成』（汲古書院）
- 蛭沼芽衣（2015）「石山寺旧蔵本『金光明最勝王経』解題」『文献探究』53
- 高山倫明（2020）「春日政治」『日本語学』39-1（通巻 500 号）特集「日本語学を創った人々」

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 高山倫明	4. 巻 126
2. 論文標題 「字余り法則」小考	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 語文研究	6. 最初と最後の頁 1 - 15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高山倫明	4. 巻 38-10
2. 論文標題 言語文化と日本語史	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本語学	6. 最初と最後の頁 12-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高山倫明	4. 巻 39-1
2. 論文標題 春日政治	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本語学	6. 最初と最後の頁 22-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----